

篠原房枝作 「祈り」2

- 効果音 (日曜の朝、礼拝の時。受付係と教会員のあいさつ)
- 受付 おはようございます。
- 清水裕子<sup>ゆうこ</sup> おはようございます。
- 受付 はい、週報。
- 裕子 あ、どうもすみません。
- ナレーション 清水裕子は高校1年のクリスチャンです。夏の教会キャンプに誘われて、イエス様を心から信じてバプテスマを受けてからというもの、日曜日の教会生活が待ち遠しいのです。そして今日はその日曜日、主の日です。いつものように聖歌隊の練習が終わり、自分の席に着いて週報を開いた時、花模様の付いた特別記事がパッと目に留まりました。
- 裕子(モノローグ) ああ、来週の案内…。あ、そうだ、来週は音楽礼拝！ それにライト先生の帰国前の最後の説教…。
- ナレーション その時、ふと彼女の心に浮かんだことは――。
- 裕子(モノローグ) 岩本君…。彼を誘えたら…。彼に賛美歌を聞いてもらいたい。それにライト先生のメッセージ「恥ずかしくない目標」。これを聞いて、彼に人生の本当の目標を知ってほしい。ぜひ来てほしい。
- ナレーション 岩本君は、裕子の中学時代の友人で、とても親しく付き合っていたのですが、最近では、別々の高校に行ったこともあって、なかなか会えないでいました。けれども彼女は、いつも岩本君のことを気にかけて、教会に誘いたいと思っていました。そして教会員の兄弟姉妹たちにも、共に祈ってもらっていました。
- 音楽・効果音 (頌栄 541、祝祷、後奏)
- 司会 これに手本日の礼拝を終わります。
- 足立健二 裕子ちゃん、どうしたの？
- 裕子 あ、足立君。
- 足立 礼拝の時、何か考え込んでいるみたいだったけど。
- 裕子 うん…。あのね、何かとっても不思議なんだけど、週報に来週の案内あるでしょ。
- 足立 ああ、音楽礼拝の？
- 裕子 そう。それを見たら、ふっと“岩本君を誘えたら”と感じたの。今までにも教会に来てほしいと思っていたけれど、こんな風に心に浮かんだのは初めて。それに、「誘いなさい」と示された気がしたの。
- 足立 そうだったのか。すばらしいことじゃない。神様のみ心だよ。
- 裕子 うん。でも彼、来るかな？ だって来週でしょ。この前会った時にも、すごく忙しいって言ってたし。それに、どうやって誘ったらいいのか。手紙？ それとも会って話すべきかしら？
- 足立 彼は絶対来るよ。思い煩わないで祈れば、神様はいつでもこたえてくださる。ただ、そのこたえを僕たちが注意深く待っていないと、こたえてくださったことも分からずに、その時を逃してしまう。裕子ちゃんの心に浮かんだこのことは、“来週がその時だ”ということじゃないのかな。ね、祈ろうよ。
- ナレーション そして二人は、岩本君のことについて祈りました。(バックで祈りの声)足立君。彼は裕子に

とって、心から尊敬する信仰の先輩であり、祈りのすばらしさを教えてくれた“祈りの友”でした。

裕子 …主のみ名によってお祈りいたします。(二人声を合わせて)アーメン。

足立 どう？ 岩本君が、来週来ると思う？

裕子 うん。彼は絶対来る！ ありがとう。きっと来るわね。

足立 そうだね。必ず。毎日祈っているからね。

ナレーション 裕子は、感謝な気持ちでいっぱいでした。本当に、心から祈り合うことのできる兄弟姉妹がいることのすばらしさを、神に感謝せずにはいられませんでした。

裕子(祈り)(エコー) 神様、感謝します。祈りの友を与えてくださったこと。また、岩本君が、来週の礼拝に来ることを確信させてくださって…。どうか主よ、すべてをあなたにゆだねますから、あなたのみ心のままに、私を導き、用いてください。そして、岩本君の心の扉を、あなたがたたき、開いてください。

ナレーション 翌日、裕子は、岩本君に手紙を書き、ポストに入れました。すると、それまでわずかながら残っていた不安や、思い煩いが一切消え、返事も聞いていないのに、“必ず岩本君が来る”と信じることができました。

音楽 (ブリッジ)

ナレーション その週の金曜日、学校の帰りに、駅前で裕子は偶然、岩本君に会ったのです。

裕子 岩本君！

岩本絊一 あ、清水。

裕子 久しぶり。元気？

絊一 まあね。

裕子 手紙、届いた？

絊一 手紙？ いや、まだ。いつ出した？ 今、郵便遅れ気味だからな。

裕子 そう…。ま、いいわ。あさっての日曜日、暇？

絊一 日曜？…あ、ダメだ。午前中はおやじと買い物行って、午後は友達が来ると言ってたから。

裕子 (少しがっかりして) そうなの…。あのね、手紙のこと、多分明日着くと思うけど、もう一度考えてみて。お願い。それじゃね。

ナレーション 裕子は、急いでいたのですが別れましたが、心の中ではちょっぴり悲しくなりました。でも気を取り直し、祈りました。

裕子(祈り)(エコー) 神様、あなたのみ心のとおりになさってください。心から彼にあなたを知ってほしいのです。そして、はっきりと自分の目的を持ってほしいのです。

ナレーション 彼女は真剣に祈りました。普通に考えたら不可能なことなのです。岩本君は、はっきりと「日曜日は予定があって、時間が取れない」と言ったのですから。それでも裕子は確信を持って祈りました。(間)そして、日曜日――。

裕子(モノローグ) 岩本君、来るかな…。いえ、神様、早く彼をここに送ってください。

効果音 (街の雑踏)

ナレーション 裕子は、10時10分前に駅にいました。そして、10時を2、3分過ぎた時、彼女の目に、岩本君の姿が映りました。

裕子(モノローグ)(祈り) 神様、感謝します！

ナレーション 彼女は思わず心の中で叫びました。

裕子 (嬉しそうに)おはよう！

絃一 オッス。

裕子 いいの、今日？

絃一 ああ。友達は昨日の夕方来たんだ。それにおやじは、急に仕事で出かけたしさ。時間が空いたから。

裕子 そう。よかった。じゃあ 12 時まで付き合ってもらえる？

絃一 まあね。これからどこ行くの？

裕子 え？ もちろん教会。

絃一 教会？…おれ、行かないよ。

裕子 なぜ？ どうしても、あなたに聞いてほしい話があるのよ。

絃一 話？ そんなのいいよ。

裕子 どうして？ 決して聞いて損な話じゃないわ。これからの 1 時間半は、きっとあなたにとって益になるものよ。あなたの本当の目標がつかめるわ。

絃一 そんなもの、今のおれには必要ない。おれは、おれの目の前にあることを、一つ乗り越えて、またその次に、おれの前に立ちはだかることに、ぶつかっていけばいいんだ。本当の目標なんて必要ない。

裕子(モノローグ)(エコー)なぜ？ なぜなの？

ナレーション 裕子の心は、絶望の波に押し寄せられていました。みんなで熱心に祈った祈りを、主が聞いてくださって、とても不可能だと思っていた岩本君が、こうして来てくれたのに、ここまで来て、もうすぐ教会というところまで来て、彼の心がかたくなになってしまったことが、信じられませんでした。

裕子 ねえ、お願いだから、一緒に行って。

絃一 イヤだ！ おれ、帰るよ。

ナレーション 岩本君は、そういうと、裕子に背を向けて帰っていきました。

音楽 (ブリッジ)(重苦しい感じ。)

ナレーション 彼女は、重い心を抱いて、礼拝に出ました。メッセージの間も、彼女は泣きそうな思いで紙に問いかけていました。

裕子(モノローグ)(祈り)どうして？ 神様、なぜですか？ 祈りにこたえてくださると、そう確信したのに…。わたしの信仰の弱さゆえですか？ あなたのみ心を教えてください。この悲しみは、主の備えた試練なのですか？ 彼の心をかたくなにしたのは…。(おえつ)

ナレーション その時、牧師先生の語る聖書の言葉が、まるで稲妻のように心に入ってきたのです。

聖書の言葉 「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ人への手紙 4:6-7)

裕子(モノローグ) そうだわ！ 神様、感謝します。すべては、あなたが“よし”とされたことですね。祈ります、真剣に！ 彼が救われるということは、主が約束してくださいました。もう思い煩いません。すべてを主にゆだねて祈り求めます。

音楽 (合唱)

ナレーション 裕子は、暗やみの中から、一筋の光を見いだした思いで、心を込めて賛美歌を歌いました。

“この賛美を、そしてイエス様の福音を、いつか必ず岩本君が聞いてくれる日が来る。イエス様がそうさせていただきます”と信じながら――。

<完>